



## 資本主義と企業倫理性

黒田インターナショナル コンサルティング

黒田 毅

所有は、利益の追求における非倫理的現実を与える。資本主義における一つの真実である。他方においては西洋における倫理主義的判断は、経済において企業倫理性とともに、現実におけるトッププレゼンスを形成するものである。

これらは CSR と企業の社会責任という現実においてグローバル経済における西洋のリードを与えるものである。他方においては利益主義という現実が存在しこれらは明らかに対峙するものである。

これらは、西洋が世界をリードする絶対的な真実なのである。これらはグローバルスタンダードとしてその理解を有することは必ず正しいのである。

これらはグローバル企業における責任であることはその同じルールにおける市場参加において真実として受け入れるべきであると考ええる。

これらは世界のリードは西洋における倫理的、社会的進歩性において維持されるという真実であり、これら良識と良心は世界の未来を与える唯一の現実であることは真実なのである。

これらは企業の社会参加という現実が企業において新しい可能性を与えることを提案できるものである。企業が社会市民として、利益体としての自己でなく、社会参加を求めることはその社会の向上や進歩において新しい可能性を提案できるのである。

経済は新たな段階へ自己を進むゆくことにおいて、社会との新しい関係という現実は、企業において真剣に考慮されるべきであると考ええる。

これらは、企業の社会との共生は、新しい社会育成を与え、これらは未来という新しい現実を与えられることができるのである。

これらは利益主義に対して、企業の社会性は、社会の枠組みを変化させ、これらがより優れた社会構築を可能とすることはできると考える。